

## 田中 沙季

### 略歴

2022 年

北海道大学 農学部 卒業

2022 年 9 月～

Wageningen University

Biotechnology

修士課程在籍

### この大学院を選んだ理由

まず、海外の大学院へ進学するにはすごいモチベーションや明確な目標が必要だと思われるがちですが、私が進学を考えたきっかけは英語圏に住んでみたかった+なんかかっこいいからという単純な理由です。もちろん進学するまでも進学後もそれなりに大変なことはありますが、この体験談を読んでいる程度に海外へ興味がある人なら、迷ったらとりあえず挑戦してみるのがいいと思います。

大学院選びでは、ヨーロッパ圏内で英語が通じる国にあり、食品科学のプログラムがあるところを studyportals というサイトで探しました。ヨーロッパを選んだのは、学部生のときに食品科学の授業をあまり受けられず勉強し足りないと感じていたので、修士 1 年目に授業を受けてから 2 年目で研究をするというヨーロッパのシステムが合っていると思ったからです。もちろん、色々な国に旅行しやすいということと、雰囲気が好きなことも大きな理由です。

そうして候補を絞った中でも Wageningen University は、この分野で世界ランキング上位にあったこと、大学を中心に多くの食品関連企業や研究所が集まっておりその連携が活発なこと、そして面白そうな研究テーマが多かったことなどから第一志望に選びました。

### 出願まで

私が海外大学院に出願すると決めて準備を始めたのは 2021 年の 3 月頃です。これはかなり遅い方で私は後々後悔したので、これから海外大学院を目指す人には英語の勉強だけでも早めに準備しておくことをおすすめします。ただ、逆に準備がこれだけ遅くても頑張れば何とかできるので、もう手遅れだと思って諦める必要もありません。

出願には英語のスコア、学部の成績、志望動機書や履歴書などが必要です。Wageningen University の場合、留学生は要件を満たしてれば基本的に全員合格できるといわれているので、志望動機書が最重要ではないかもしれません。日本で生まれ育った人の場合、英語のスコア取得が一番の難関だと思います。

英語のスコアには IELTS か TOEFL を使うことになると思います。札幌では IELTS の試験があまり行われていないので、私は TOEFL を受験しました。スコア合計点の要件はそこまで高くないのですがクリアできましたが、スピーキングのスコア要件が私にとっては厳しくかなり苦戦しました。計 5 回ほどテストを受け、12 月末ごろにやっと必要な点数を取ることができました。後半はもう出願締切に間に合わないんじゃないかとかなり焦ったので、皆さんは



早めに、計画的に勉強してください。スピーキング対策は KMF というサイトの機械採点を使って、自分の回答を録音→採点→目標点に近い他の人の回答例との比較を繰り返すのが一番効果的でした。

### 不合格からの合格

年末に MSc Food Technology へ出願してから約 2 週間後、不合格の通知が届きました。

私は食品加工工学の研究をしていたものの、学科は生物環境工学科でかなり幅広い分野を学んでいたため、前述のように食品科学の授業は少ししか履修していませんでした。そのため、学士課程の学習内容と Food Technology との関連性が不十分であり、出願要件を満たしていないと見なされてしまったのが原因です。

普通はここで諦めるところですが、Wageningen University では不合格に対して意義申し立てのできる制度があるため、その準備に取り掛かりました

(他の海外大学院でも似た制度があるか、無くても送れば受け取ってくれるかもしれません)。履修科目の中で Food Technology に少しでも関連しそうな授業、そして研究内容を文章にまとめ、「学科名や履修科目名は一見関連性が低いけど、私が大学で勉強したのは紛れもなく Food Technology です！」という趣旨のメールと共に送りました。

しかしその申し立ても認められなかったため、次の作戦：他学部への出願へと方向転換しました。調べたところ MSc Biotechnology でも、Food Biotechnology を専攻すれば MSc Food Technology と同じ内容を勉強できることがわかったので、そちらに出願しました。

実はこの出願もまた同じ理由で最初は不合格でしたが、ここでも異議申し立てを行い、審査のやり直しを行ってもらって、3月にやっと合格通知を受け取ることができました。

この経験から私が学んだことは、

- ・相手側の決定に納得がいかなかったら自分の意見を主張して交渉してみるの大事。熱意でカバーできる可能性は割とある。
- ・第一志望が決まっても、別の大学・プログラムにも出願して（または準備だけしておいて）複数の選択肢を確保した方がいい。

ということです。私の経験はレアケースすぎるかもしれませんが、海外大学院に落ちてしまった場合の打開案の 1 つとして参考になればと思います。

### 海外大学院の生活

現在（2022年10月）は6学期あるうちの1学期目で、午前（8:20~11:30）は週5で食品技術に関連した数学の演習授業、午後（14:00~17:00）は週4で食品の構造を学ぶ授業を受けています。ほぼフルコマのスケジュールです。

数学は日本の教育レベルが高いおかげでこなせていますが、食品構造の方は専門用語が多い上に初めて学ぶ内容のため、教科書を読むのに苦労しています。でも、学部生のころよりもっと深く自分の興味のある内容を学ぶことができているのですごく楽しいです。「私がずっと勉強したかったのはまさにこれだ！」と日々感じています。

オランダに来る前は、毎日予習復習に追われ遅くまで勉強して、英語もできなくて超しんどい生活が待っているかと思っていましたが、案外なんとか



なっています（私が特別頭いいとかではなく）。日本との違いは授業が英語で行われているというだけで、すごく難解な授業をやっているわけでもなし、海外の学生がみな真面目というわけでもありません。広い目で見ればいい意味で日本とそんなに変わらないので、海外大学院に対して特別気を張る必要はないと思いました。

また、大学は都心部から離れているので札幌と違って遊べる場所が多くありません。空き時間には料理をしたり、乗馬クラブに行ったり（大学で馬術をやっていたので）、大学のスポーツセンターに行ったり、Netflix を見たりして過ごしています。日本のような多種多様で美味しいご飯は電車で都心まで行かないと手に入らないので、ラーメン、韓国料理、ハンバーガーなど食べたいものは全部自分で作って楽しんでいます。海外に長期間住む上で大切なのは英語よりも料理スキルかもしれません。

### 最後に

海外大学院での生活はとっても充実していて、この進路を選んで本当に良かったなと思っています。なので、私のほぼノリと勢いで突き進んできた体験談を通して、海外大学院進学を悩んでいる人の背中を少しでも押すことができれば嬉しいです。質問などあれば [sakitnk04@gmail.com](mailto:sakitnk04@gmail.com) までどうぞ！

